

第4号

新風会だより

発行:平成20年12月

磯崎陽輔新風会

大分市長浜町2-12-10

電話 097(535)8260

<http://www17.ocn.ne.jp/isozaki/>

ヨウスケが行く

参議院議員 磯崎陽輔



こんにちは。磯崎陽輔です。早いもので、当選以来1年5か月が過ぎました。この間、ねじれ国会の下、少数与党の悲哀をいやというほど感じさせられました。参議院は野党に占領されており、予算の審議も、法案の審議も遅々として進みません。そうした中、100年に一度と言われている金融不安が世界中にまん延し、その対策のため、衆議院の解散を行うこともままならなくなりました。政治、経済とも危機に瀕し、率直に言って、自民党政治の危機であります。

国民の皆さんは、この何とも言われぬ時代の閉塞感の中で、チェンジを求めています。「だれがやっても同じ。」と思いつつも、閉塞感を打ち破る変化を探っています。私は、「自民党を変える」ことを公約として、選挙に立ちました。今こそ、自民党をチェンジさせなければなりません。

衆議院に小選挙区制を導入した時、アメリカのような政権交代可能な二大政党制を目指したのです。そうであれば、我が国の政権交代には随分時間が掛かっているとも言えるのでしょうか。いろいろ批判があっても、自民党には、今日まで国民の信頼をつなぎ止めるだけのものがあつたのです。しかし、少子高齢化の進展に伴い、財政が極めて厳しくなると、財政再建を第一に掲げなければならなくなりました。小泉総理が「自民党をぶっ壊す。」と言って総裁戦に臨みましたが、見事その

とおりになってきました。行き過ぎた財政再建路線が、国民の不信をつのらせ、自民党支持層の多くを離反させてしまったのです。

構造改革には、痛みを伴うものです。それを、私は否定しません。しかし、そこに優しさがあったか、それを問わなければなりません。野党の提案する絵に描いた餅のような話には、実現性はありません。しかし、そうしたものを求めるまでに国民を追いやった自民党の責任も、認めなければなりません。

これまで、自民党は、金権批判や派閥批判を、改革により乗り越えてきました。今回の総裁選では、一銭の金も動かなければ、派閥の締め付けもなくなりました。今変えなければならぬものは、党の体質そのものです。霞が関の官僚を批判しながら、なかなか政治主導の政策を実現できない体質。党の中の縦割りや年功序列。そうしたことを乗り越え、本当に国民目線に立った政策の立案をしなければなりません。

国民が求めているのは、若さあふれる正直で、ひたむきな党の運営と政策の立案でしょう。そんな自民党に今チェンジしなければ、次には自民党がチェンジされてしまいます。自民党には400人を超える所属国会議員がいます。1年を経て、やっと多くの同僚の皆さんに、名前を覚えていただきました。いよいよ、より大きな声で発言していかなければなりません。ただし、独りよがりの発言を繰り返しても、無意味です。政治は、数です。多くの仲間を集める必要があります。すばらしい国会議員がたくさんがんばっています。私は、坂本龍馬の気持ちで、新しい動きを作りたいと考えています。

マスコミの偏向した政治報道には本当に閉口しますが、それを乗り越えるだけの発信力を自民党は持たなければなりません。来るべき総選挙に備え、しっかりと党改革に努めてまいります。どうか、皆さんの御指導と御支援をお願い申し上げます。

地方を見つめる確かな目線・磯崎陽輔参議院議員

白杵市 足立 和敏

磯崎陽輔というさわやかな名前の若き政治家を初めて間近に見たのは、平成19年7月の参院選大分選挙区で初当選される少し前、大分市で開かれた「大分フォーラム」の会場で、でした。フォーラムのテーマは、先行き不透明な時代のもとでふるさと大分をこれからどう発展させていくか、という重大な内容。会場には多くの県民が詰めかけ、大きな新しい風を感じさせる磯崎さんの発言に注目していました。磯崎さんの隣には、パネリストとして招待された片山善博元鳥取県知事。冒頭、片山氏が「私と磯崎さんは、実は自治省（現総務省）時代の先輩と後輩の関係にあり、お互いよく知っている仲なのです」と語ると、やや緊張気味だった場内の空気がたちまち和らいでいきます。

しかしお二人の最大の共通点は、単なる先輩、後輩の関係でなく、わが国の地方自治を過去の固定観念にとらわれずに根底から見直し、本物の地方活性化対策を考え、活動されていることです。片山氏は、すでに鳥取県知事時代、地域の自立と再生を目指す「鳥取自立塾」を主宰して有名ですが、これからの磯崎さんも、自治省時代の北海道、和歌山、沖縄、静岡など地方での行政経験や自治大学校教授のキャリアをベースに、わが大分県の真の活性化のありかたを情熱をもって語られました。

私の心にストレートに響いてきたのは、磯崎さんが選挙活動のために県南の漁村を船で巡っていた折りの話です。「漁村に近づいていく船から眺めると、村には人影がないんです。まだ昼間なのに誰もいない。港に着いて聞いてみれば、お年寄りのほとんどはデイサービスセンターに行っているとのことで、もちろん若い人はいないから子供もいません」。まるで死んだような村の中に立ち尽くし「これはいったい何なんだ！」と大きなショックを受けたと語りました。そして「この現実を変えるのは政治しかない。老若男女、子供たちが楽しく暮らせる地方でなければならない。そんな世の中にできる政治家になりたい」と。聞き入っていた片山氏も「磯崎さんはこれからの人。きっとやり抜くでしょう」とエールを送りました。

地方に新しい風を吹かせる、可能性あふれる政治家になってほしい。私のみならず大分県民の切なる願いでもあります。

足立さんプロフィール

(株)大分建設新聞社編集長（東京で30年間雑誌編集、日経特約記者、F1誌などのフリーライターを経て、平成6年、生まれ故郷の白杵に帰郷。同18年から現職）。

国会豆知識

vol.4

■紫の袂紗（ふくさ）

「紫の袂紗（ふくさ）」— 一般的に袂紗は、絹や縮緬などで無地または吉祥柄などの刺繍を施した儀礼用の高級風呂敷のことを言いますが、紫の袂紗となると、「永田町」やマスコミでは「衆院解散」の同義語で使われます。天皇の御名御璽を押捺された解散詔書を包む袂紗が紫色であり、衆議院議長がその紫の袂紗を開いて解散詔書を朗読することから、衆議院解散と同義語になったものです。

麻生太郎内閣総理大臣（首相）は、「政局より政策を優先させる」として、米国発のかつてない金融危機に対処するため、追加経済対策実現に全力を傾注することで、事実上衆院解散を来年に先延ばしする方針を表明。目下、政府・自民党は「全治3年の日本経済」（麻生首相）から早急に抜け出すため、財政・金融政策はもとより、政策を総出動して対応しています。我が国の国会は衆議院と参議院があり、「2院制」と言われます。それぞれ議員の任期は4年と6年と定められています。ただ、衆院については、憲法の規定により、任期満了前に衆議院議員全員の地位を失わせる解散ができるのです。

よく「国会の解散」という表現も散見されますが、正確には衆議院の解散とすべきです。というのも、衆院が解散された場合、参議院は閉会となりますが、衆院解散から特別国会召集までに、国政にとって緊急な事態が発生した場合は、内閣は参議院に緊急集会を開くよう求めることができます。

読者諸兄姉は、議長が「衆議院を解散します」と宣言すると同時に、議員全員が「万歳」三唱する姿をTVで見かけるといいます。これは大日本帝国議会時代の「天皇陛下万歳」の形が残っているとの説が有力ですが、“クビを切られる”各議員の悲喜こもごもの感慨を表しているのでしょう。ちなみに紫色の袂紗だけが慶事弔事兼用に使われ、先方の心中や祭礼を重んじて、喜びや悲しみをともにする気持ちを表す意味がある、とされています。

■いそざき陽輔のホームページ <http://www17.ocn.ne.jp/~isozaki/>

磯崎陽輔の日ごろの活動などを御紹介しています。ぜひ御覧になってください。

対談

第4回

「大分県の教育」

参議院議員 義家 弘介

参議院議員 礒崎 陽輔



対談相手の義家さんと

(礒崎) 大分県では、全国的なニュースとなった教育に係る不祥事が起きましたが、どういう感想をお持ちでしょうか。

(義家) これは、戦後の教育を象徴する事件だと思います。労働組合、教育委員会、学校、文部科学省それぞれに問題を抱えています。しかし、教育の仕組みを作り直すチャンスでもあります。大分県で今回の問題をきちんと分析し、適切に対処することによって、逆に日本で一番まともな教育体制を作るチャンスだと思います。

(礒崎) 採用試験でお金が動いたり、採点表が改ざんされていたことには驚きましたが、背景には、長い間の教職員組合による教員人事への介入の問題や、それを許してきた教育委員会の体質の問題があると思います。どうしたらよいでしょうか。

(義家) 閉塞感漂う組織を改善する上で最も必要なものは、外部からの客観的な目ではないでしょうか。教育行政がうまくいっていない所は、大抵組合や学校といったものが教育委員会を侵食してしまっています。だから、教育委員会に外部人材を入れる必要があると思います。

(礒崎) 教育委員会が公表した「調査結果報告書」では、校長先生や教頭先生の昇任試験のときに、教職員組合の幹部から候補者推薦リストをもらっていたということが書かれています。しかし、こうしたことを今後やめるということは、報告書のどこにも書かれていません。「それは、おかしいのではないか。」と、県の教育委員会や文部科学省に訴えたところですが、現在の教育委員会の在り方について、御意見はありますか。

(義家) 教育委員会制度をやめるという考え方と、教育委員会の責任を担保した上で再構築するという考え方がありますが、単純に無くせばいいという議論は現時点ではできません。今すぐできることは、教育委員会の責任の在り方を見直すことです。教育委員会はオブザーバー的に教育行政を監視してアドバイスしていくという役割にし、縦割りの教育委員会と事務局を横の関係にすることは、今すぐにも可能ではないでしょうか。外部人材を積極的に登用して、しっかりと事務局を監視できるような組織体制にしてこそ、教育委員会の存在意義とい

うものが生まれてきます。

(礒崎) 教育委員会が現行の行政委員会のままでいいのか、義家先生のいう監視システムにした方がいいのか、検討してみると面白いですね。

(義家) そういった法改正は国会でしかできないので、国会がイニシアチブを握って議論していく必要があります。教育委員会の改善案のひな形を地方に提示して、タウンミーティングなどで徹底的に議論し、ビジョンを示して発信し続けるべきであると思います。

(礒崎) 今後、教育改革にどう取り組んでいこうとお考えですか。

(義家) まず最初に、どんな子供を育てるのかという明確なビジョンを国全体で共有しなければいけないですね。その土台となるのは、親、教師、学校、教育委員会、それぞれがその責任を全うしながら互いに支えあっていくような体制作りです。

次に、幼児教育や初等教育をどう正常化して再構築するかということです。今は極端に優秀な子供と、極端に問題のある子供だけに焦点が当てられています。そういった子供だけではなく、一般の大多数の子供たちに何を教えなければならないのかという議論をしていかなければなりません。初等教育における子供たちの基礎レベルをどのくらいに設定するかということも考えるべきです。

(礒崎) 資原のない我が国で、人間を育てることよりも大事な政策はないと思います。教育問題も、対症療法みたいなことばかり議論しては駄目ですね。国として何を子供たちに教えるかということをしつかりと議論すべきです。それにしても、最近の子供たちの職業意識の薄さが気になりますね。

(義家) その点に関しては、何よりも感謝の気持ちを教えることが大事です。働いてくれているお父さんやお母さんに感謝する気持ちが大切です。その感謝の気持ちこそが、金もうけのためではなく、自分も感謝され、尊敬され、一所懸命自分の責任を全うしていきたいと思えるような職業意識を生むのではないかと考えます。

教育のスタートに自由や権利、そして個性があるのではなく、それは教育のゴールにある。つまり、本当に自由で、本当に堂々と権利を主張できて、本当に社会で通用する個性的な人間を育てるために教育があるのだと思います。

(礒崎) そういったことをきちんと教える学校であってほしいですね。



◎義家弘介 (よしいえひろゆき)

昭和46年長野市生まれ、明治学院大学卒業後、塾講師を経て、私立余市高校社会科教諭、横浜市教育委員を歴任。「ヤンキー先生」としてマスコミで活躍、現在参議院議員

新風会ひろば

ホームページで、活動記録を御覧いただけます。
<http://www17.ocn.ne.jp/~isozaki/>



いそぎ陽輔東京後援会設立総会



ふうせんバレー九重チーム



坂本九重町長選対の皆さんと



大分市連総務会で



住吉川清掃



小鹿田焼窯元



鶴崎ミニ集会



豊後高田市で芋掘りに参加



磯崎陽輔新風会・いそぎ陽輔東京後援会御入会のお願い

磯崎陽輔の活動を応援して下さる方、是非御入会をお願いします。
入会については、下記にお問い合わせください。

■磯崎陽輔新風会 (TEL 097-535-8260)

ホームページからのお申し込みもできます。年会費は、1,000円です。下記の口座まで、お振り込みください。
口座番号 01730-4- 118483 加入者名/磯崎陽輔新風会

■いそぎ陽輔東京後援会 (TEL 03-3508-8610)

年会費は、一口2,000円です。下記の口座までお振り込みください。
口座番号 00100-1- 743291 加入者名/いそぎ陽輔東京後援会